

いしずえ



# 茨城県民間保育協議会青年部

## ■民間保育協議会 青年部研修会■

民間保育協議会青年部研修会が10月30日水戸の産業会館で開催されました。

今回は、財団法人 茨城県カウンセリングセンター主任 カウンセラー 小沼京子先生をお招きしカウンセリングの基礎について学びました。よく聴いてもらう体験は「自分を大切にされている」という体験になるということ、結論やアドバイスを急がないようになどのお話があり保護者とのコミュニケーションをとる上でも参考になるお話をたくさん聴くことができました。

また、研修の後半では他の保育園の面識のなかった方々と交代に聞き手役となりこころのストレッチなるものを実際に体験してみました。話を聴くこと、相手の気持ちを受け止めることの大切さを再認識することができる研修でした。

### ～参加したU保育士の感想～

閉ざされた空間で育児に追いつめられてしまう保護者に、実際に対峙する私達は何をしてあげられるのだろうか。保護者からの様々な相談を受けるたびに自身の無力さ加減をひしひしと感じる・本当にこれでいいのかなと自問を繰り返す。そんな私達に一筋の光を与えてくれる研修となりました。相談を受けるとどうしても、アドバイスを…と気がはやってしまいゆちですか! 何よりもまず「相談者の傍に寄り添いその気持ちをほどこくこと」「丁寧に聴くためにアドバイスを急がないこと」「相談を評価するのではなく、理解すること」

そして目からウロコだったのが、相談を受ける保育士もサポーターが不可欠で、そのために園内のコミュニケーションが大事であるとのこと。カウンセリングは一朝一夕にできるものではなく、相談者の気持ちを受け止めるには自身の心にも余裕が必要である…

普段の仲間との協働をもっともっと大事にしようと思いを新たにいたしました。



### ☆ トピックス ☆

- 民間保育協議会青年部研修会報告
- 日本保育協会青年部全国青年保育者会議三重大会報告
- 日本私立保育園連盟青年会議九州大会報告
- 広報委員会 視察研修報告

エコ活動の一環として、両面印刷、NO ホチキスにて配布いたします。御了承下さい。







## ■日本保育協会 全国青年保育者会議 三重大会■

平成22年9月8～10日に三重県鈴鹿市にある、鈴鹿サーキットホテルを会場に全国大会が行われました。大きな変動の時期を迎えている中で厚生労働省雇用均等・児童家庭局 保育課長 今里譲氏より待機児童対策、こども園について、お話しをいただきました。変化を感じる中で私たち保育者もアンテナを張っていかなくてはならないと感じました。

2日目は青年部執行部によるシンポジウムが行われました。コーディネーターの堀 昌浩 部長を筆頭に坂本喜一郎 保育部会長、竹内勝哉 制度部会長、制度研究グループリーダーから安里淳氏が登板されました。現在保育制度を取り巻く様々な視点から若手からたくさんの意見が出されました。午後からは「子どものための『新たな制度』づくり」「子どもの育ち」～親・保育園・地域そして社会全体で・・・～ 「保育園に黒船がやってきた!!」「遊びながら学ぶ遊園地とは?」「交通教育センター (STEC) 体験」と、5つの分科会に分かれて行われました。

最終日には横浜・神奈川大会から引き続きフォトコンテスト、記念講演では地元 三重県で農業を営んでいる、モクモク手づくりファーム社長 木村 修氏のお話でした。保育業界でも食育に力を入れておりますが、生と死、命をいただく大切さを若者、子どもたちにどのように伝えていけば良いのか、農業の大変さなどをお話になりました。

こうして、3日間のすべての大会が終了し、無事に三重大会は閉幕しました。



## ■第30回私立保育連盟 青年会議全国大会 北九州大会■

2010年10月14日・15日にかけて、北九州市小倉リーガロイヤルホテルにおいて、第30回全国私立保育連盟青年会議全国大会が行われました。今年のテーマは、子どもたちの視線で～子どもたちの最善の利益を目指して～という事で、目前まで迫ってきている幼保一体化と合わせて、全国の保育園でもこの先どうなるのか・・・という不安や、一日刻みで変わる不安定な情勢から、少しでも多くの情報を集めたい、交換したいという先生方が全国から集まりました。

まず、厚生労働省の少子化対策企画室室長 黒田秀郎氏の行政説明があり、続いて、全国私立保育連盟常務理事 木原克実氏の活動報告、記念講演では、講師に北九州市保育連盟 顧問の藤岡佐規子先生の講演がありました。会議全体の雰囲気として、来年は長崎で日保協青年部の全国大会が開催されるという事もあり、長崎県の先生や、ホームである九州の各県の先生方の参加が数多くみられました。







## ■視察研修に行って■

近年、老朽化による園舎の改築が増加しています。そのなか、広報委員会は一年間にわたり建替えをした色々な保育園を視察してきました。普段あまりお話を聞けない、実際使用してみると使いづらい点や、失敗した点などを各園長先生から聞いてきました。今後、園舎の建替え、増築の際に参考していただけたらと思います。

- 採光を考えた園舎造りにしたが、風向きを考慮しなかったため、テラス部分が風雨の影響で冠水してしまう。
- 高い天井からのぶら下がり式蛍光灯は、著しく清掃しづらい（プロに頼むしかない）。
- 建設当時は最新式の床面の換気口から調整空気が出るシステムを採用したが、床面の換気口の穴がネックになり、園児がおもちゃやゴミを入れてしまう。
- 明るさを優先しホールに水銀灯を導入したが、点灯するまでの時間が長いうえに、ランニングコストが結構掛かってしまう。
- 屋根の張り出しが短かったため、雨の日を下を歩っていると濡れてしまう。
- 設計者が保育園建設の経験が無かったため、打ち合わせが難航した。
- 給食室のフライヤーの油の補充が1斗缶での補充のため、定員が少ない施設には不向き。
- 洋式を取り入れ、廊下、保育室、トイレ等すべて土足での利用にしたため、清掃が大変。
- 園庭を芝にしたが、雑草が増えるうえ、よく歩く場所などは土が見えてしまい、整備に手間が掛かってしまう。

デザイン性を優先すると、利便性に欠けることが多いようでした。





# 編集後記

礎 24号編集メンバー

小笠原、金澤、堀川、川又、佐藤、河野  
大谷、長谷川、後藤(順不同)

あの厳しい夏が終わり、ようやく冬のにおいのする空気が満ちてきました。葉を落とし始めた紅葉を見ながら地球の気候を憂い過ごす日々はまだまだ続きそうです。世界各地で行われている環境会議のことが時々頭によぎります。便利さを享受することによって私達が残してしまった傷跡に、次の世代がどう対処してくれるのか。ただ解決してくれるのを期待して、自分たちは何も変えずにそのままがいいのか。寒さなどど吹く風で外で走り回る子どもたちの顔を見るたび、贖罪の念に心が苦しくなります。

でもここで鬱々と悩むばかりでもしょうがない、今からでもできることを、小さくてもできることを！命は、途絶えるものでなく続いていくものだから。つながる尊い命達によりよい環境を残せるよう、もう少し頑張ってみましょう、皆さん！！

H. 12. 8

Merry  
Xmas!!!

～よい年末を！ 広報委員会

〒310-8586  
水戸市千波町 1918  
茨城県民間保育協議会  
青年部広報委員会発行